

# あぷろうち

～ approach ～

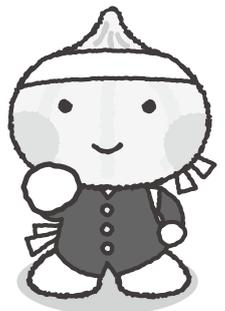


日本労働組合総連合会  
群馬県連合会（連合群馬）

発行人 高草木 悟  
編集人 飯田 博久

〒379-2166  
群馬県前橋市野中町361番地2  
(群馬県勤労福祉センター2F)  
TEL 027-263-0555  
FAX 027-261-0549  
Eメール info@gunma.jtuc-rengo.jp  
URL http://www.rengo-gunma.gr.jp/

2016年5月号  
No.247



## 「クラシノソコアゲ応援団！2016RENGOキャンペーン」

～一人ひとりが主役です～

連合は、政府が重きを置く国・企業の立場ではなく、働く者・生活者の立場から「働く人が報われる社会」を念頭においた、国民のくらしを中心とする社会的対抗軸を構築し、社会のうねりを呼び起こす運動として、2015年12月8日の「クラシノソコアゲ応援団！2016RENGOキャンペーン開始宣言集会」を起点に、全国各地でキャンペーンを展開しています。

連合群馬は、4月18日前橋、19日高崎、23日伊勢崎にて、当該の地域協議会、議員懇の各級議員と連携し、駅頭・街頭にて働く者、生活者の立場から、4つの基本的考え方（①「底上げ・底支え」「格差是正」で好循環！②安全・安心のセーフティネットを構築！③すべての人にディーセント・ワークを実現！④健全な民主主義を取り戻そう！）をもとに、4つのキーメッセージ（①暮らしの底割れや格差の拡大を止めよう、②働き甲斐のある仕事を取り戻そう、③安心・安全に暮らすためのセーフティネットを要求しよう、④働く人が報われる政治を取り戻そう。）を発信するとともに、各議員から地域の現状について報告を行いました。



黒沢議員懇代表



金子事務局長

また、「安心して暮らせる地域社会の実現」に向け、県民1万人以上の協力によるアンケート調査を実施し、政策・制度へ反映させるため、群馬県へ要求と提言をおこなっていること。また連合本部と連携した国会前での集会などに取り組んでいることを県民に訴えました。

当日は駅頭・街頭にて、チラシ入りティッシュの配布もおこない、広く世論に訴える取り組みも実施しました。

4月20日～22日、5月16日～20日にかけては、県内全域を街宣車にて、「年金積立金の問題」、「医療・介護・保育で働く人の環境改善」、「解雇の金銭解決制度の問題」、「軽減税率の矛盾」、「労働相談ダイヤルや組織化」などについて、世論喚起を実施しています。



## 届けよう・・・私たちの思い

5月18日前橋、19日高崎での、「クラシノソコアゲ応援団！」の取り組みに合わせ、連合群馬青年・女性委員と連携し、19日、20日と実施した女性の全国一斉労働相談の周知や4月14日に発生した「熊本県を中心とする九州地震災害」



救援カンパの取り組みを行いました。この取り組みは、私たちの多くの仲間も被災している状況のなか、一日でも早い復旧を願い実施しているものです。継続的な取り組みとなりますので皆様のご協力よろしくお願い致します。

## —組織の枠を超えて— 新種目で白熱戦

4月23日、県勤労福祉センター体育館において、青年委員会スポーツ交流会を開催しました。男女あわせて100人を超える青年組合員が参加し、スポーツで汗を流すとともに、組織を超えた交流をはかりました。

今年は新しい種目として、カナダが発祥の「キンボール」また群馬県ではなじみ深い「上毛かるた」を取り入れました。当日は連合群馬議員懇の方々にも参加いただき一緒にプレーをしながらの交流を図りました。新種目「キンボール」は初めて体験する組合員がほとんどで、始めは慎重にプレーをしていましたが、時間が経つにつれ競技は白熱し皆、汗だくになっていました。参加者からは「なめてかかったが、いつの間にか競技にのめり込んでしまった」「思ったよりハードだったけど楽しかった」などの声をいただきました。

まだまだ馴染みのない競技ですが、皆さんの組織でも試してみたいかがででしょうか！

まだまだ馴染みのない競技ですが、皆さんの組織でも試してみたいかがででしょうか！

当日は連合群馬議員懇の方々にも参加いただき一緒にプレーをしながらの交流を図りました。新種目「キンボール」は初めて体験する組合員がほとんどで、始めは慎重にプレーをしていましたが、時間が経つにつれ競技は白熱し皆、汗だくになっていました。参加者からは「なめてかかったが、いつの間にか競技にのめり込んでしまった」「思ったよりハードだったけど楽しかった」などの声をいただきました。



参加いただいた議員懇の方々



加藤委員長挨拶



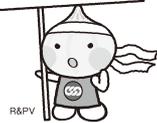
### ■キンボール

1チームを4人とし、3チームで戦います。対戦するチームのどちらかを指定したうえで、直径122センチのボールを手や腕でヒットします。指定されたチームはボールが地面に落ちる前にチームで協力してレシーブします。上手くレシーブ出来ずに地面に落下した場合は失敗したチーム以外のチームにポイントが入り、競技時間内にポイントを多く獲得したチームが勝ちとなります。キンボールは国内・国際大会も開かれており、これから普及が期待されているスポーツです。



競技解説中！

組織でやってみてね



### ■大判上毛かるた

言わずと知れた上毛かるたをサイズアップしコート上にランダムにおきます。20メートルほど離れたところから、札を読み上げると同時に各チームの代表者が一斉にかかるたを取りに走るというとてもシンプルな競技。

競技が始まると、かるたがグチャグチャになるまで取り合うなど白熱した展開となります。



## みんなで森林を守り育てよう 赤城山の前橋市有林を整備



林野労組の指導を受けて倒木を裁断

4月16日、前橋市三夜沢町の市有林を整備しました。

当日は、各組織の組合員と家族、議員懇の各級議員など40人が参加しました。

作業地は、コナラやサクラが生い茂る雑木林で、昨年より連合群馬が整備しています。

今年も林野労組の皆さんの指導を受けながら立ち枯れた木々の伐倒や風で折れた木の裁断を行いました。

参加者は、慣れない手でノコギリを引く人、声を掛けあい協力して枯れ木を切り倒す人など、役割を分担しながら整備を行いました。

また「下草が小動物の隠れ家や餌場になっている」との指摘を受けたため、下草は刈らずに残すなど山の生態系の維持にも思いを巡らせながらの作業となりました。

今回は秋口です。皆様のご参加をお待ちしています。



## 組織拡大キャンペーン実施中

5～7月は、組織拡大強化月間です。

連合群馬では2020年までに12.5万人の組織化目標を掲げ日々取り組んでいますが、組織拡大に向けては、皆様からの情報が必要です。是非情報を連合群馬までお寄せください。

- 組織で非正規労働者の声に耳を傾けてください！
- ご家族や知人と労働組合の必要性を話してください！
- 仕事でお悩みの方へ『なんでも労働相談』を紹介してください

## 6月は男女平等月間です

6月は、男女平等月間です。

雇用における男女平等、仕事と生活の調和と両立の拡充に向け世論喚起や組織内への周知を行います！

月間に合わせて、セミナーを開催します。

- ◆ 6月4日(土) 10:00~12:00
- ◆ 群馬県勤労福祉センター 3階
- ◆ これからの女性の新たな働き方  
～ワークライフミックスが切り拓く新しい働き方～  
講師 光畑 由佳 氏  
モーハウス代表取締役、(N) 子連れスタイル推進協会

# 「政策・制度要求と提言」は更なる展開へと続く…

シリーズ【連合の政策実現】については今回で最終回となりますが、政策提言は次の取り組みと共に更なる展開を迎えます。…シーズン4（終）

**政**策・制度要求と提言の取り組みは、群馬県はもとより、県内の各自治体すべてに提出し、文書回答をもとに、各自治体の考え方や具体的な施策の展開を確認したうえで、更なる生活環境の改善に向け、意見・要望を伝えることが重要であり、決して回答を受け取って終わりではありません。私たちが取り組む「政策・制度要求と提言」はタイトルにもある通り更なる展開へ続きます。

前回お伝えしたとおり、本年度は『9項目を提出し3項目について前進』という評価をしましたが、今後は、取りまとめた評価をもとに、県との意見交換を行います。



県評価を基にした意見交換（昨年）

**具**体的には、提言した内容が施策運営に反映されていない場合、県として「必要性が理解されていない」のか、優先順位として「限られた予算の中で施策展開が行えない」のかなど確認を行い、今後どのようにしたら我々の思いが理解され、施策展開に反映されるのかを検証していきます。このように県との意見交換と並行して、①3月の予算議会の内容、②連合群馬県民意識調査（1万人）結果を分析し、8月の知事への提言に向け策定を行います。また、7月の政策フォーラムでは、産別・地協、議員懇、各団体、一般県民からの意見を集約し最終の取り纏めを実施していきます。

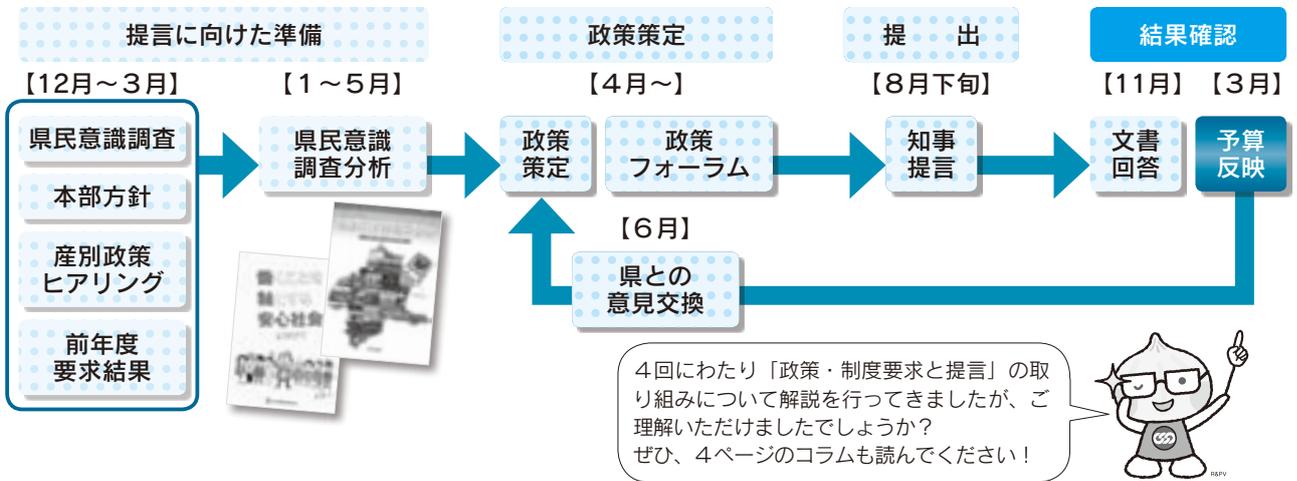
我々がめざす「すべての県民が安心して暮らせる地域社会」の実現に向け、皆さんの声を是非お寄せください。

政策フォーラム

■日時：7月30日（土）9：30～11：30

■場所：群馬会館

■内容：①2017政策・制度要求と提言説明 他  
②基調講演「地方分権と自治体の政策形成」  
岩井 奉信（日本大学法学部教授）



4回にわたり「政策・制度要求と提言」の取り組みについて解説を行ってきましたが、ご理解いただけましたでしょうか？ぜひ、4ページのコラムも読んでください！



## 来る7月は、参議院議員選挙です！

連合群馬は「群馬選挙区」

ほりこし **堀越**

けいにん **啓仁**



候補予定者を応援しています。

# ユニオンガール'S TALK No.2

せきぐち みゆき  
関口 深雪さん

連合群馬女性委員会 副委員長  
東京電力労働組合群馬地区本部渋川支部 副執行委員長



## 物事に優先順位を付けて、無理はしない！

はじめまして、ユニオンガール'S TALKへようこそ

### ー組合役員になられたのは

入社してすぐ組合の青年部活動に携わるようになりました。職場の先輩が楽しそうに活動しているのを見て、企画側に入りたいと思ったのがきっかけです。その後、青年部役員を退任した際に、支部の執行部の方から副委員長という話をいただきました。副委員長という立場での話に大変迷いましたが、青年部時代の先輩方のアドバイスや執行部の方のしっかりサポートするという、“力強い言葉”に後押しされ、また当時の書記長が“イクメン?!”だったことが決断した理由です（笑）

### ー日頃のお仕事や組合活動はどのようにですか

現在の職場では、電気工事業者さまからの電気使用申込みや事前相談を受ける仕事をしています。たとえば、ここに住宅が建つので電気を引きたい、太陽光発電を設置したい等の依頼を受けています。

副委員長としての活動は、女性の視点も大切に、委員長を支える立場としてはもちろん、職場状況の把握を意識して活動を進めています。先日、病欠の委員長代理として執行部の皆さんと団交で申し入れをした時はとても緊張しました。

### ー仕事と家庭の両立のポイント

『仕事』『組合』『家庭』を両立するのは非常に大変なことですが、一度に色々なことをやろうとするとどうしても無理が生じますよね。物事に優先順位を付けて、無理

はしないことが秘訣です。すべてにおいて完璧な人なんていませんので。

そして、自分の置かれている状況を周りと共に共有することで理解・協力を得られると思います。

私の場合、育児に関しては両親の支えがとても大きいです。また執行部の方も家庭の事情に配慮していただけます。私には中学生になった長女がいるのですが、周りの皆さんの協力もあり、どうしても参加しなければならない学校行事には行くことが出来ました。おかげで長女から不満を言われたことはほとんどありません。子どもが社会人になった時、母親の携わる組合活動について本当の理解を得られたらいいな、と思っています。

### ー女性委員会の活動で印象深いものは？

経験した活動で印象深かったものは、女性委員会で対応した労働相談ですね。組合がある会社であれば問題が発生した際、組合が窓口になってくれますが、多くの会社ではそれが出来ない。困っている人たちの受け皿的な役割としても非常に意義深い活動だと思います。

### ー女性の活躍推進、男女平等参画を促進するには？

家事や育児、仕事や組合において、できること、できないことは男女に違いがあると思いますが、全体的に見れば、ほとんど差はないと思います。女性の場合、組合役員の話がでるとどうしてもできない理由を並べてしまいがちですが、まずはやってみることが大切だと思います。

### ー最後にひとこと…

組合活動を通じ、たくさんの人と知り合うことが出来て人間関係が広がりました。これは仕事のやり易さにもつながっています。私の場合、きっかけはどうかあれ（笑）、組合活動に携わらなければ経験できないことも多く、大変なこともあります。それ以上に自分自身にプラスになっているなど実感しています。是非多くの女性の方に経験して欲しいと思います。

忙しい合い間に、お子さんとランチをするのが楽しみだそうです！



Listener 吉田 香苗



〜安心して働きたい・暮らしたい図〜  
【政策・制度要求について】

4回にわたって、連合群馬が取り組む「政策・制度要求と提言」について、紹介してきました。  
この間、連合群馬では県をはじめ県内の各市町村に提出する「政策要求」の立案に向け「県民意識調査」に取り組んでいます。

本年も、皆さんのご協力により、10,293名（4月26日現在）の回答を集約することが出来ました。

連合が結成された最大の目的である「力と政策」を示し、働く者の生活向上に向け、「政策・制度要求と提言」の実現をめざし、組合員のみならず群馬県民ひいては日本国民に向けた取り組みであり、ナショナルセンターとしての役割と責任を果たす取り組みであります。

連合群馬が結成され、いざ、政策要求を立案し、地方自治体に要求するとの議論を行う中で、果たして県民が何を求め、何に困っているのか、県民の声を集約する方法が必要ではないか？とのことから、アンケートによる意識を調査してはどうかと、結成の翌年1990年から展開しています。

当初は、組合員を対象に2000名の集約を行っていましたが、政策要求を県に提出する中で、知事から「県民の声といってもすべて組合員ですね！」とのコメントがあり、それでは真に県民の声を集約しようと地協を通じて組織外の方々への展開にも広げ、組織内・外同数の4000名に増やし、年を重ねるごとに組織外の比率を高め、組織的な運動としての取り組みと相まって、今では毎年10,000名を超える県民の声を集約する取り組みへと発展しています。

これも、政策要求の取り組みの重要性を理解していたにている産別・単組、地協のおかげです。

（新井）